

<b>提携先</b>	(株)平田牧場	<b>記入日</b>	2008/8/7
<b>登録消費材名</b>	1 豚肉ロース・肩ローススライス、2 豚肉モモスライス、3 豚肉カタバラスライス、4 豚肉ひき肉、5 豚肉ヒレ・ロース・肩ロースブロック、6 豚肉モモブロック、7 豚肉バラブロック、8 豚肉カツ用、9 豚肉カタブロック、班/A・豚肉ブロックセット、班/B・豚肉スライスセット、班/C・豚肉ブロックスライスセット、班/D・豚肉ひき肉 ローストポーク用1kg、豚肉バランスセット・スライス、豚肉カレーシチュー用(冷凍)、豚肉みそ漬、豚しゃぶスライス(もも)、豚しゃぶ(ロース・肩ロース)、豚肉焼肉用(ロース・肩ロース)、こめ育ち豚しゃぶロース・バラ、こめ育ち豚スライスセット、こめ育ち平牧金華豚カタスライス、こめ育ち平牧金華豚セット		

### ．これまでで努力してきたことや、生産条件の限界性など

<p>1. ～自主基準書に基づいた項目～</p> <p>04-1-A-02 HACCP認証取得などの管理システムの導入  ISO9001を基に、弊社独自に自主管理システムを構築し、管理を行ってまいりましたが、管理レベルの向上を目指し、改めてISO9001の取得に向けて取り組んでおります。</p> <p>05-2-A-02 容易に清掃できる構造  5Sを推奨し、作業環境の維持を行っておりますが、施設の老朽化による不具合が目立つようになり、本社ミートセンターでは改修工事を進めております。この結果、改修後の状態を維持しなければというような、従業員の意識の変化が現れました。  また、本社ミートセンター以外の事業所でも、施設の改修を実施し、作業環境の整備に努めております。</p> <p>04-7-規格-01 製造工程での異物混入対策の実行  挽肉工程のチョッパーに挽材を投入するリフトの、ミートワゴンの解除レバーを、足踏み式から手動式に変更いたしました。</p> <p>04-7-規格-03 金属探知機等の設置  2007年7月の線異物検出機の本社ミートセンターの挽肉とスライス肉の工程への導入に続き、2008年4月に高崎事業所にも導入いたしました。</p> <p>12-1-A-02 開けやすい工夫  挽肉の包装を開けやすいイーザーピールに変更しました。</p> <p>2. ～消費材の利用価値の追求～  1頭買いの仕組みには、部位バランスの正常化が不可欠です。1頭丸ごと消費するため、供給バランスの取れる企画の提案を進めます。</p> <p>3. ～消費材の質を組合員に伝える～  産学官提携の「飼料用米プロジェクト」の成果として、肥育期後期の飼料に飼料用米を10%添加し肥育した「こめ育ち豚」は、飼料用米の収量により給餌頭数が限られておりますが、2007年より冷凍企画での通年供給と、デポー向けでは高崎事業所より冷蔵で月3回の供給を開始しました。</p> <p>4. ～安全・健康～  硬骨等の硬い異物の混入対策として、導入した線異物検出機では、包装後に検査を行うため、異物による排除数が生産性の低下に直結します。このため、脱骨・整形等の前工程での除去が非常に重要になりました。</p> <p>5. ～環境～  製造工程内の設備機器の洗浄では、POEPを使用しない洗浄除菌剤を使用しております。</p>
--

製造工程以外の社内では、手洗石鹼や洗濯石鹼などのエスケー石鹼の製品を使用しており、社員の家庭での石鹼の使用を推進しております。

### ・前年に努力したことへの評価(成果や課題)

1. ～消費材の利用価値の追求～  
部位バランスへの意識喚起のため、2007年に150gのスライス肉3部位と250gの挽肉を組み合わせで提案した「豚肉バランスセット・スライス」は、人気の消費材となり、2008年も隔月企画として定番化しました。使い切り少量パックという点で好評を得た面や、部位バランスの意識付けにもなりました。  
今後も、組合員のニーズに合った企画提案を行い、1頭丸ごと消費するため、供給バランスの取れる企画の提案を進めます。
2. ～消費材の質を組合員に伝える～  
「こめ育ち豚」は供給開始時より、人気の消費材と成りました。  
今後も豚肉学習会などの場を通し、食料自給率のみならず、飼料自給率の向上につながる、「飼料用米プロジェクト」や「こめ育ち豚」の活動の意義を伝えてまいります。
3. ～安全・健康～  
昨年7月の本社MCでのX線異物検出機の導入に続き、高崎事業所でも今年4月に導入いたしました。  
また、本社MCでは線異物検出機による異物の検出結果を、前工程である脱骨・整形工程にフィードバックし、改善を行った結果、導入より1年間で排除率を1/3に減少することができました。
4. ～環境～  
他の事業所の製造工程での、POEPを使用しない洗浄除菌剤への切り替えを推進した結果、1事業所で切り替えを行いました。  
各事業所において可能な範囲での石鹼の使用を進め、全体での使用拡大を推進いたします。

### ・上記の成果や課題につながる今年度の努力目標、または今年度の新たな努力目標

1. ～消費材の利用価値の追求～  
1頭買いの仕組みの維持は、部位バランスの正常化が基本です。今後も、組合員のニーズに合った企画提案を行い、1頭丸ごと消費するため、供給バランスの取れる企画の提案を進めます。
2. ～消費材の質を組合員に伝える～  
今年の飼料用米の作付面積の増加により、今秋以降の飼料用米の給餌頭数が増える見込みです。「飼料用米プロジェクト」の意義や「こめ育ち豚」の良さを、豚肉学習会などの場で伝え、この取り組みへの理解の輪を一層広げてまいります。
3. ～安全・健康～  
5Sの実践と、施設の老朽箇所の改修を行い、作業環境を改善するとともに、ソフト面での従業員の意識向上を促し、衛生管理や品質管理の向上を目指します。  
また、線異物検出機の導入は、現状本社ミートセンターと高崎事業所の2箇所ですが、実績等を考慮し、他事業所での導入を検討いたします。
4. ～環境～  
他の事業所の製造工程での、POEPを使用しない洗浄除菌剤への切り替えを、推進いたします。  
各事業所内での石鹼の使用の拡大と、社員の家庭での石鹼使用を推進し、環境負荷の低減に努めます。

提携先	(株)平田牧場	記入日	2008/8/12
登録消費材名	豚肉		

### ．これまでに努力してきたことや、生産条件の限界性など

#### 1 飼料用米生産

平成 16 年度から始まった産学官連携「飼料用米プロジェクト」は 4 年目を迎え、遊佐町から酒田市、栃木開拓農協、JA 加美よつばにも広がり、当社で使用する 2008 年産の作付面積は 328ha に拡大し、約 2,000 トンの収穫量を見込んでいる。当社の生産体系全体の肉豚仕上飼料に 10% を配合するには 600ha (約 4,000 トン) の作付面積を必要とし、遊佐町と酒田市以外での今後の拡大が課題となる。

#### 2 地域内資源循環

「有機堆肥の会」を立ち上げ、現在同会員に対して良質堆肥を供給できる体制を確立した。この庄内の地域では昔から有機堆肥が不足な地域で、昨今、化学肥料も高騰していることから、今後ますます引き合いが有ることが予測され、合併前の市町が維持するコンポスト原料で使用する、生堆肥の供給についての打診がある。

#### 3 家畜の生理・健康を重視した飼養

山形県より農業参入の依頼があり、畑の土が痩せていることも有って放牧を提案し、今年から肥沃効果、放牧による寄生虫の害の調査を含めて、舎内飼育との発育比較試験を行っている。大々的に放牧を実施するためには広大な面積を必要とし、環境への負荷を考慮する必要性、冬期間もあることから課題は大きい。

#### 4 生産基盤の維持

2006 年 4 月より連続 8 期 (1 期は 3 ヶ月) 飼料価格の生産者負担が増え、生産者の飼料代の支払いサイトは月末の 2 ヶ月が多く、枝肉価格への転嫁はその数ヵ月後になることから、値上り分の価格転嫁を早める要請や廃業を検討する生産者も生じた。

### ．前年に努力したことへの評価(成果や課題)

#### 1 飼料用米生産

世界レベルでの穀物が逼迫し、輸出規制や価格高騰の要因もあり、国でも自給率を向上する国家戦略として 2008 年に入り、国会議員、農水省、各地域の農政局、教授等々の産地視察が対応出来ない位の頻度であり、現在も継続している。

飼料用米価格は、産地作り交付金を見込まないと耕種農家は再生産出来ない価格であることから、米生産者、需要者、消費者が一体となり農水省に掛け合い、「飼料用米導入定着化緊急対策」とし、31.4 億円 (キロ 25 円) の予算化を獲得した。これに基づき交付申請を行うために、庄内、栃木開拓農協、JA 加美よつば区分での「飼料用米生産利用拡大推進協議会」を立ち上げ、総会を行なった。

#### 2 地域内資源循環

堆肥の需要は春と秋の年 2 回に集中し、春の需要が一番多いことから春には不足、冬には完成堆肥の置き場不足が年間行事となっているが、昨冬に関しては早春より堆肥の動きが早かったことと、需要が増えているのか堆肥不足で供給を断る頻度も多かった。

#### 3 改正食品衛生法関係

昨年も継続して、ポジティブリスト制による動物性医薬品残留事案が提携生産者も含めて全く無かったことは当然であるが成果でもある。この緊張感を継続して意識付けて行うことが重要である。

#### 4 放牧養豚

動物福祉の観点も含めて、放牧養豚の試験を行った。大規模での実施の課題のクリアも大きいことから、小規模でも問題意識を持って放牧試験を継続して行きたい。

## ・上記の成果や課題につながる今年度の努力目標、または今年度の新たな努力目標

### 1 平田牧場自主管理システム

平田牧場自主管理システムについて農場運営を行う上で不可欠な土台であり、顧客（消費者）視点が重要であることから ISO の目的と一致する。今年度は平田農場全体で ISO 取得に向けて活動を行う。

### 2 飼料用米生産

平田牧場の生産体系全体の肥育後期飼料に 10%を配合するには、約 600ha（約 4,000 トン）の作付けが必要であること、これ以外の飼料でもまだまだ使用可能の予測から、他県でも生産の拡大が図れるように努力していきたい。

### 3 地域内資源循環

引き続き、堆肥の需給バランスを取り過不足の調整を図るシステムを模索する。

### 4 改正食品衛生法関係

継続して、動物用医薬品残留や生産に及ぼす危害因子の根絶を図る。

### 5 放牧養豚

ステージ毎の放牧試験を行い、統計と分析を行いながら経験を積み、放牧養豚の意義を探る。

### 6 改正食品リサイクル法への取組み

法定目標値は勿論、省資源・リユース・リサイクルの徹底を図る。

### 7 生産基盤の維持・拡大

世界の穀物需給の影響が継続し、今後ますます国内で生産する環境が厳しさを増す予測から、生産面では管理レベルの向上と管理レベルの高い生産者との提携努力。供給と販売面では、業界や生産現場の抱える問題や課題を伝え、価格について理解を求めて行く。